

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞など）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（血液・細胞など）を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

がんに対する新規免疫療法の開発研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 越智俊元（血液・免疫・感染症内科学講座 講師）

【研究の目的】

遺伝子改変技術の進歩に伴い、造血器腫瘍に対する新たな免疫療法（キメラ抗原受容体 T 細胞（CAR-T 細胞）療法や二重特異性抗体療法）が国内でも認可され、使用されています。難治性造血器腫瘍の患者さんの約半分に治療効果が期待できるとされていますが、適応とならない場合や、治療を行っても効果が乏しい場合などもあわせて報告されています。

そこで本研究では、必要に応じて HLA、ヒト T 細胞受容体遺伝子、ヒト免疫グロブリン可変領域遺伝子の解析を行いつつ、遺伝子改変技術を応用し、新しい遺伝子改変型免疫細胞や遺伝子改変型抗体タンパクなどを作製します。これまでの治療法が使用できなかつたり、これまでの治療法では十分な治療効果が期待できなかつた患者さんにも、免疫療法を基盤とした新たな治療薬を届けることができるように研究開発を進めていくことが目的となります。

【研究の方法】

（対象となる患者さん）2000年4月から2028年7月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方で、白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫と診断された患者さん（利用するカルテ情報）性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血

液検査データ、画像検査データ、治療状況 等

(利用する試料) 通常の診療で使用した後に残った試料 (血液・細胞など)

(方法) 残余検体を用いて、必要に応じて HLA、ヒト T 細胞受容体遺伝子、ヒト免疫グロブリン可変領域遺伝子の解析を行います。また、残余検体から標的となる腫瘍細胞や免疫細胞を抽出します。続いて、遺伝子改変技術を用いて、新たな治療薬となりうる遺伝子改変型免疫細胞や遺伝子改変型抗体タンパクを作製します。これらが、標的となる腫瘍細胞を正確に攻撃できるかどうかを検討して、期待される薬効を評価します。

【共同研究について】

この研究は、単一施設 (当施設) での研究となります。しかし、得られた検体をより細かく解析するために、匿名化の上受託研究機関に送られる場合があります。こうして多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。そのため、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

< 試料・情報の管理責任者 >

愛媛大学医学部附属病院 血液・免疫・感染症内科学講座 氏名 越智 俊元

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 血液・免疫・感染症内科学講座 越智俊元

791-0295 愛媛県東温市志津川 454

Tel: 089-960-5296